



不妊・去勢しボランティアが世話

広がる地域猫活動

大分合同新聞
2023年
9月9日(土)
朝刊 21面



飼い主のいない猫に餌を与える「チームタマコ」のメンバー。猫の左耳はV字形にカットされている。8月24日、大分市上野丘西。撮影・山戸孝哉

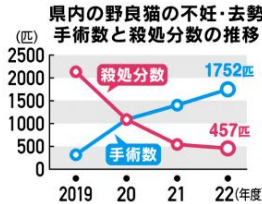
殺処分8割減 ■ なお400匹犠牲に

飼い主のいない猫に不妊・去勢手術を施し、ボランティアが管理、世話をする「地域猫活動」が県内で広まっている。繁殖を抑えて殺処分を減らすための試みで、県や一部自治体は手術費を補助している。これまで4千匹以上を処置した結果、野良猫が少なくなつて処分数は約8割減となった。それでも、いまだ年間400匹を超える命が犠牲になつており、動物愛護教育と連動した総合的な対策が求められる。

(松尾祐哉)

「命を全うして」

大分市上野丘西の住宅街、体長約30センチの猫は地元ボランティア団体「チームタマコ」が与えた餌を食べ終わると、満足そうに大きなあくびをした。同団体は主婦6人が交代で餌やりやふん尿の片付けなど、周辺の野良猫17匹を世話している。そのうち13匹は片耳がV字形にカットされていた。不妊・去勢手



野良猫の引き取り件数

年度	件数
2019	2625
20	1580
21	919
22	858

※おいた動物愛護センターと自治体調べ、3月31日時点

地域猫活動を支える県内の中心的な取り組みは、県や各市町村などが連携して

増える登録団体

代表の伊藤景子さん(69)は「二代限りの命を健やかに全うしてもらいたい」と願う。

街済みの印であり、桜の花びらのようにも見えることから「さくら猫」と呼ばれている。残る4匹も処置する予定だ。

「進める「おいた さくら猫プロジェクト」だ。団体も参加している。

事前登録したボランティア団体が野良猫を捕獲し、おいた動物愛護センター(大分市廻柄野)に運んで無料の手術を受けさせる。処置後は地域に戻し、各団体が面倒を見る仕組みだ。

野良猫に避妊手術を施す活動は全国で展開されているものの、県が主体なのは大分県だけという。

センターによると、プロジェクトを通じた手術数は初年度の2020年度が860匹で、22年度は137

7匹に達した。賛同する団体も増えている。大分市の22年度時点の登録ボランティアは267団体で、前年度から80団体以上増えた。

「ゼロ」険しい道

センターに引き取られる野良猫は4年間で3分の1以下の858匹まで減少した。殺処分も19年度の2134匹が、22年度は457匹まで減った。

とはいえ目標とする「殺処分ゼロ」の道は険しい。22年度に命を絶たれた猫のうち7割以上が生まれて間もない子猫だった。

センターの金城(代)志所長(57)は「基準体重に満たないと手術ができない。残りは病気にかかった成猫などで、譲渡するのも難しい」と説明する。

プロジェクトに対しては「人間の都合で手術をするのはかわいそう」といった批判的な意見もある。

県食品・生活衛生課の大平英明参事(54)は「現時点では殺処分を減らすための最も有効な手段だと考えている。不幸な猫が増えないよう、多頭飼育や高齢化した飼主への対策も不可欠だ。飼い主だけでなく一人一人が何ができるかを考えてほしい」と話した。

プロジェクトの手術費用は、おいた動物愛護センターの手帳と県獣医師会に寄せられた寄付金で賄っている。2022年度の寄付金は3万5千300円だった。問い合わせは同会(097・574・5211)。



〔問①〕 「さくら猫」とはどのような猫ですか？ （ ）

〔問②〕 【 】に入る言葉を文章中から選びなさい。

野良猫の引き取り件数と殺処分数には【 】の相関が見られ、
殺処分数と手術数には【 】の相関がみられそうです。

〔問③〕 殺処分数をゼロにすることが厳しいと思われる要因を答えよ。

〔問④〕 殺処分数は2019年度から8割減となり、22年度は457件である。
式を考え19年度の数を導く式を答えよ。